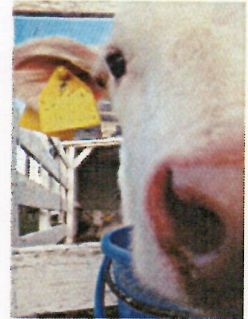


子牛の飼養管理を再チェック

【一貫した飼養】

子牛は非常に繊細で変化を嫌います。そこで、子牛の管理には一貫した飼養が重要となります。ハッチや哺乳舎内の温度、哺乳時間、容量、乳固形分の濃度など可能な範囲で日々同じようにするべきです。子牛は一日のスケジュールに順応する能力をもっており、安定したスケジュールによりミルクやスターターの給与量もより効率的に上がっていきます。逆を言えば、一日のスケジュールが日々バラバラであれば子牛はストレスを感じ、下痢や肺炎といった疾病を引き起こす要因にもなってしまいます。もちろん子牛のサイズや月齢、気候条件等によって調整は必要ですが、できるだけ子牛にストレスを与えないように飼養管理することが必要です。



【水の重要性】

哺乳子牛にも水を与えることの重要性は昔から言われていますが、実際に与えている農家は多いとはいえません。水はスターターの摂取量を増加させる効果があります。水とスターターは生後2日ほどからフリーチョイスで与えるのがよいといわれます。

冬の舎外では水がすぐに凍ってしまいます。毎年の課題ですが、お湯を入れてあげたり、ハッチの中にバケツを設置したり工夫されていると思います。水がカチカチに凍ったバケツが何日も放置されることのないよう、いつでも新鮮な水が飲めるような環境に子牛をおいてあげましょう。

【スターターと乾草】

スターターを子牛に給与する大きな理由はルーメンを発達させるためです。生まれたばかりの子牛のルーメンは未発達で、早い時期からルーメンの絨毛を増やし発達させることが今後の発育に重要です。スターターと合わせて乾草も給与している農家が多いと思いますが、乾草の摂取量が増加してくるのは離乳が完了している3カ月頃からです。乾草を与えるのであれば新鮮な乾草をすこし与えつつ、重要なのはスターターの食い込みであるといえます。



【スターターの食い込み】

スターターをいつも与えている農家も十分量与えられているか、またそのスターターが新鮮であるか、確認が必要です。最初の2週間は食べきれなくなるまで少量給与します。その後3~4週間になるとスターターの摂取量は増加していきます(常に全量を食べきれなくなったら、給与量を増やしていきましょう)。

【冬に向けて】

子牛が快適に過ごせる適温域はだいたい10℃~20℃といわれています。冬場は当然寒冷ストレスにさらされているので、体温を一定に保つためより多くのエネルギーが必要になります。ジャケットや十分量の敷料に加えて、夏場よりミルクを多めに給与する必要があるかもしれません。